



月報

# 岡崎の教育

11月号

昭和57年11月1日  
 編集/発行  
 岡崎市教育委員会

おおぜいの子が、  
 貯金にやってきました。  
 こづかい貯金「もちのまと貯金  
 日」だ。  
 二十円、三十円、五十円、  
 なかには、十円玉で百円の子も  
 いる。

お金をかぞえてあずかる子、  
 帳面に金額を書き入れる子、  
 委員は、みんないそがしい。  
 でも、みんな楽しそうにやって  
 いる。

世話をする子にあずける子、  
 どの子の顔もさわやかで、  
 ひとときわ大きく、  
 「子ども銀行」の看板が目につく。



(お小遣いをためたよー岩津小)



# いま、教育に望むもの

## —みどり児はかく教える—

富田 太

—教育随想—

泰は三歳。近くに住む二女の二男。悪戯ざかりである。数日前から熱を出してぐずること一通りではない。ここ二日ほど、家内は娘の家にいて泰の世話にかかりつきりだ。川崎病に似ているが少し違う。昔風に言うところと猩紅熱の一種だと医師は言う。口中に白いぼろぼろが発生し、ものを呑み込む時、痛がつて泣く。首筋あたりのリンパ腺ははれて、首を左右にまわすことも難儀のようだ。

家内は家庭医学の書物で覚えた素人療法を思い出し、自分の両手のひらをこすつて温かくする。この手のひらで泰ののどのあたりを撫でてやる。泰は気持ちよさそうに、手を休めるともつとやれと家内にせがむ。泰はなかなか、ものを食べたがらない。そんな時、家内が、「おばあちゃんが治る治るしてあげるから食べなさい。」

と、先ほどのように、両手のひらを温かくしてのどをこすつてやると、泣きながらも少しは食べるといふ。

泰は夜、寝る時も、母親に、おばあちゃんがしてくれたいように、手のひらをこすつてのどを撫でよとせがむという。心配やら寝不足で不機嫌な娘は家内に言ったそうだ。

「おばあちゃんが甘やかすので、夜は大変。一晩中、のどをさすれとせがむんですよ。」

ところで、今度は、疲れが出て、家内が頭が痛くなつてしまった。無理をして娘の家へは行つても、浮かぬ顔である。回復近い泰に向かつて、家内は言った。「泰くん、おばあちゃんは頭が痛い。痛い痛い。」

するとどうだろう。泰はもみじのよう

な小さな手のひらを、顔が赤らむほど力を入れてこすつたのだ。温かい手のひらで、自分がしてもらつたように、家内ののどや頭に当て、いつまでも撫でてくれたのだ。

「泰がやつてあげる。治れ治れ。」

遅い夜の食卓で、家内は涙ぐんでこのことを話した。

「幼い児だと思つていたのに……気持ちよかつたことを思い出したのかなあ……恩返し……真似をしたのかなあ……だけれど不思議だよねえ……」

「恩返しなんつてもものじゃないさ、それは単なるもの真似さ。」

そうは言いながら、私もまたひとつの驚きを禁じ得なかつた。「教育とは真似させることだ。」とある学者が言つたことをばを思い出した。みどり児の反応は大きな感動だつた。

今日、青少年健全育成の声が高い。子どもの非行はおとな社会の落とし子だと深刻に受け止める人も多い。確かに社会の悪は洗わねばならぬ。あるいは今日の子どもへの対応の仕方を研究しなくてはならぬ。だが、指導の根幹は、なんといいつても親と子、教師と生徒、そして、親と教師との肌の触れ合う信頼関係であり、生徒一人ひとりに浸透する担任教師の人間性の深さにある。

三歳のみどり児の、恐ろしいまでの反応は、人を愛し人を信じることの教育の大切さを改めて示唆してくれたと思う。

(岡崎城西高校長)



# 濟州島あれこれ

細井 武彦

韓国とは、どんな国だろうと心躍らせながら、南中教師十二人は、朝鮮半島の北西にある濟州島の空港に降り立った。空港口ビーにはいったとたんブーンと

ニンニクの臭いが鼻をつく。日頃なじみのないその臭いと暑さに一同少々まいってしまつた。くすんだ緑色の、クーラーなしと思えるバスに迎えられる、濟州島一のホテルへ向かう。島では、一九八八年のオリンピックに向かい、大々的に区画整理、道路改修が行われているように見受けられた。交差点に信号がないのでバスは、壊れたような音の警笛を何回も鳴らしながら走る。道路わきには、石で簡単につくつた小さな民家が並ぶかと思えば、ビルが建つていたりする。

夕食は、島のレストランで焼肉パーティーであつた。レストランといつても、換気扇代わりの扇風機が六機と薄汚れた木の机が土間に並べてあるだけで、肉とキムチと他に三品ほどが並べられた。どれもものすごい辛さである。口の中の感



## —ふるさとの山河— 矢作川 (8) 伝承

「矢作」という地名の由来については、大和武尊が東征の時、この川辺で矢を作ったという伝説がある。

矢作川にかかわる伝説は他にもいろいろある。矢作川の渡りに関するものでは新田義貞が足利尊氏軍と戦う時鳴動したという「うなり石」(矢作神社)の伝説、家康が大樹寺へのがれる時、鹿が現れたという「鹿が松」の伝説などである。このほか、浄瑠璃姫の伝説、日吉丸の伝説などはよく知られている。

習俗として伝承されているものとして、

両墓制という埋葬の仕方があげられる。

両墓制とは、埋め墓と参り墓の二つの墓を別々に造る葬り方である。これは、まだ土葬が行われている矢作川の上・中流地域に多くみられる。この地域の中には墓標として松を植えるところもある。

中・下流部では「若者組」という制度が多くみられる。はしご段的に階層序列のある年齢集団で、祭りなどでは主役となつて活動している。

年中行事や、それに伴う伝統芸能もいくつか伝えられている。

豊田市の中切町では、小正月の行事として「生り木責め」が行われる。「生るか生らぬか。生らぬと打ち切るぞ。」「生ります、生ります」とかけ合いながら、かゆを配って回るのである。

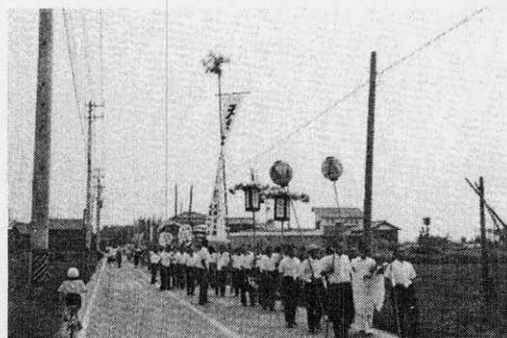
夏の行事として、岡崎市板屋町の白山神社では、輪くぐりの神事が行われる。矢作川の茅で作った輪をくぐることによる、病気をせず無事に夏を越すことを祈願する行事である。

旧岡崎藩領の一部では「お田扇祭り」(オウギさん)という祭りが行われている。伊勢神宮から受けてきたひのき製の大きな扇を神輿に納めて村々を巡回し、害虫除け、五穀豊稔を願うのである。現在では山方手水と堤通り手水のみのみが行われている。

このほかでは、狼投神社の祭礼で奉納される棒の手や、安城に伝わる三河万歳などが有名である。

また、この地域は、真宗(一向宗)が親鸞らによつて広く布教された所で、各寺院には、布教に伴う伝承も多く残されている。

しかし、こうした伝承の多くが、今や次第に忘れられてきているのが現状である。(矢北中 海藤 卓夫)



お田扇祭り風景 (福桶町)

覚が完全に麻痺してしまふ。韓国では、一流ホテルでも麦飯であった。喫茶店でコーヒーをなどというの甘い考えである。その中で、何よりも私達を活気づけてくれたのは安くておいしい巨峰とネクタリンであった。(南中)

アパルトヘイト

—南アフリカ共和国—  
村井 ちゑ子

ヨハネスブルグ日本人学校の青木先生が、おっしゃった。

「黒人を車ではねて重傷を負わせた人がその黒人を病院へ運んだら、警察で、『どうして、ひき殺さなかつたのだ。』と、言われたそうです。」

ヨハネスブルグ到着直後、白昼の路上で、ナイフで脅され、バッグを奪われた夫と私。初日のそのショックで、滞在中ずっと、黒人恐怖症になつてしまった。それこそ、黒人で、ふらふらしている人がいると、ホテルから数メートル先の中華料理店へも行けないほどのひどさだ。住宅における鍵の束。門、扉、各部屋、戸棚の一つ一つに鍵がある。家具は、すべて保険をかけてある。盗難防止である。これは、現地の人から聞いた。

ああ、黒人。

しかし、職もなく、虫けらのように扱われている黒人の生きる道は、盗みとる以外にない。

青木先生の言葉に、強盗たちの生きて行く悲しさを思った。(竜谷小)

# 家康から何を学ぶか

『三河武士のやかた家康館』開館によせて

子どもの中に家康を

岡崎市立梅園小学校長

荻野 富義

家康について、本校五年生の子どもに簡単な調査してみた。まだ、学校で家康を学習していないものの代表として、五年生を選んだのである。

家康の出生地が岡崎であると答えた者八九％、秀吉が同時代の人であると答えた者が八八％あった。ところが、家康は何をした人か、どういう人かについて答えた者は、二四％に過ぎなかった。

これは、六年生になるまで、学校の教育計画に、家康が位置づけられていないことに、大きな原因があるのではないかと、学校でもいろいろな機会に、家康にふれる工夫が必要であろう。同時に、また、「郷土の偉人徳川家康」の生き方やその心が、親子の会話の中にものぼるほどに、市民的な関心の高まりを期待するものである。

次に、小学校の教育計画の中では、家康について、何をどのように学習することになっているか、六年生の社会科の教科書（新年度版）六社のものから、家康に関する記述を分析してみた。それぞれ、

特色ある内容をもっているが、六社が、共通して取り上げていることは次の四点だけである。

○家康は、三河の小さな大名の家に生まれました。

○関が原の戦で、豊臣がたの大名の軍を破り、全国の名名をしたがえました。

○一六〇三年、征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開きました。

○大名を親藩・譜代・外様にわけて、その配置を考えました。（この項要約）

この四点は、家康について、教科書からみた最少限度の学習事項といえるだろう。また、その記述の仕方や内容についてみれば、通史的で項目羅列的であるため、教科書からは、生き生きした家康のイメージをつくることはむずかしい。

乱世を生き抜いて、天下を統一した家康の歴史的角色は、人間家康の姿を土台に持たなければ、真に理解することはできない。人間家康がどのように生きたか、

具体的に情感をゆさぶるような、物語やエピソードが必要である。物語には、想像や誇張や一方的な解釈もあるので注意を要するが、「三河物語」のいうところの、「松平受難時代」の話など、まずと

りあげたいものである。

## 深い宗教的人生観

岡崎市小中学校PTA連絡協議会長

米澤 高志

戦国時代、名ある諸将は、天下の統一号令を目指し、競って京に上ろうとするが、その目的を長く果たすことはできなかった。

ひとり徳川家康だけは、関東に下って全国統一の業を成し遂げ、長い平和の基を築いた。

山岡莊八語るところの小説「徳川家康」の全巻を流れるものは、「厭離穢土、欣求淨土」の心であろう。

戦国諸將の天下統一の動機が私利私欲に根ざしたものであったり、感情に操られたものであったのに対して、徳川家康のそれは、深い宗教的的人生観に根ざし、京都から遠く離れた関東から天下を望む距離という安全弁を用意したことに、成功の鍵が潜んでいたように思う。

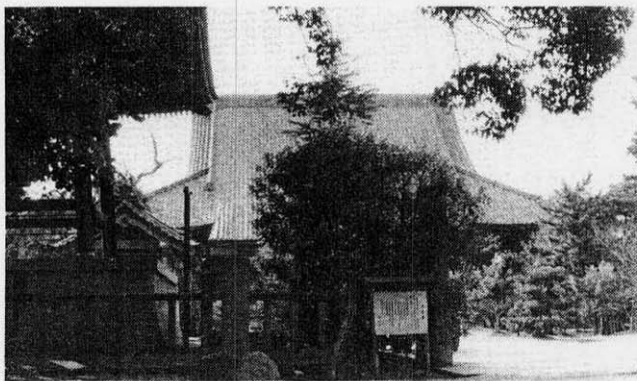
市Pという組織に関係するようになって感ぜられることは、今の世代が、ことやもの、ひとに当たって、余りにも対症療法的な対応に傾き過ぎているのではないかということである。

もう少し、深い人生観に基づいた洞察力と、ある距離を保って、見たり考えたり行動したりしないと、今の世は救えないのではないかとさえ感ずることが多い。「徳川家康」ブームに沸く昨今の岡崎市であるが、今一度東照公に何を学ぶべきかを考える時ではなからうか。

厭離穢土  
欣求淨土

徳川家康の墓

座右の銘 今川義元桶狭間に倒る（一五六〇）の報に接し、家康（十九歳）は大樹寺に遁れる。登壇上人から欣求淨土の使命達成を諭され、独立不退転の決意を固めるに至ったと伝えられる。



## 戦国女性の慈愛

岡崎市働く婦人会館

岩瀬 米子

「権現様」と呼ばれ親しまれている家康は、幼年時代から不運にも、十四年間も人質生活をしているにもかかわらず、いじげず、ひるまず、逞しく育った。

これは、生母於大の方、祖母お富の方、叔母お久の方たちからの（遠く離れていても）心暖まる文通や、母於大の方からひそかに送られる心尽くしのお菓子・衣服などに慰められたり、無事息災を祈る血書の写経、慈愛深い接し方等に守られたりしたこと起因しよう。

子どもに対する愛情は昔も今も同じなのに、家康を取り巻く肉親方は、ご自分の意志で行動することのできない浮草のような不安定な生活の中、家康に冷たい刃を向ける情勢の中で、じつと我慢し、心の結びつきだけを大切にしていた。戦国の女性の慈愛と女丈夫さに、現代の女性、特に母親と比べ、感服してしまう。

このような賢婦人に見守られ成長した家康は、用心深く忍耐強い性格で、学問には積極的に読書家であった。年譜によると、活動力の旺盛な人であったようだ。

家康は薩長藩閥によって、「狸親父」にしたてられ、民衆は家康の偉大さから遠ざけられたが、来年の大河ドラマで三百年の平和の礎を築いた家康の人間像が全国へ放映されることを、一市民として期待している。

## 自己の確立

岡崎青年会議所理事長

深田 正義

回天してゆく時勢の中で、家康は常に自己の立っている位置と役割を冷静に確認していたものと思う。そして、家康の時局、戦況に合わせた数々の判断には、安心できる大人の読みを感じるものである。秀吉とただ一度向かい合った小牧・長久手の合戦は、実質的に天下分け目の時であり、彼は果敢な決戦を挑みながらも、決定的な詰めの一手手前で和睦に応じてゆくのである。家康の戦略は、秀吉に、徳川の大きいなる存在を強く認識させることであり、その後、関が原までの十六年間の「待ち」を選択したのである。

あらゆる時局、時勢の中で、彼は真の自分自身を知っていたと思われる。不確実性の時代、不透明の時代といわれ、変貌してゆく現代社会の中で、錯綜する複雑多岐な情報が渦巻き、真の自分自身を見失いそうな今日、多くの経営者の共通のテーマは、情報の整理であり、時勢の判断であり、その中の自己の存在価値の確立にあると思われる。

九月に青年会議所が開催した「フォーラムおかざき82」は、時代の変化を基調に、岡崎のビジョンを求めようとした一大イベントであった。この中の家康タイムは、この時期にこそ家康を確認し、さらに家康を超越した温故知新の町づくりへの一歩を踏み出そうとするものである。

## 熟慮・実行・先見性

岡崎市立広幡小学校

足立 多嘉丸

三河の土豪松平家の総領として生まれ乱世を生き抜き、天下人となった家康の一生は種々な家康像を示唆してくれる。

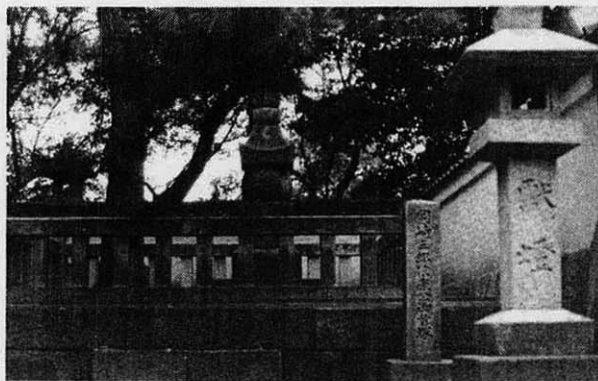
天正七年、織田方との力関係で夫人築山殿と嫡子信康殺害事件は、宗家の発展のために肉親たりとも犠牲にする戦国武将の一人としての家康像をみる。大名にとって遠隔未開の地に転封されることは石高の大小にかかわらず致命的な打撃である。それは、政経軍事の面でゼロからの出発といえる。しかるに、家康は少しの不満の色も見せずに江戸城に入城し、関東の大大名として内政に力を注ぐ。

まず、台地の土を引きならし谷を埋め、川筋に水よけ潮よけの土居を築くという基盤整備を行う。ついで大江戸町民百万人を想定し、町民の喉をうるおす上水道を四谷に完成させる。都市設計者としての家康像をみる。戦国武将から天下人家康への脱皮である。

乱世に生きる人々の切なる願いを新しい時代の要求として受け止め、「破壊から建設」こそが自己の道であると自覚し、率先して歩み続ける経世家康の姿をみるのである。

「熟慮・実行・先見性」の豊かな家康の人間的一面を学びたいものである。

▶三河一向一揆の拠点・上宮寺 永禄六年（一五六三）秋、家康は佐々木の上宮寺、野寺の本証寺、針崎の勝鬘寺の三か寺を拠点とした一向宗徒と対決する。門徒武士・農民・反家康諸勢力の連合軍を制圧し、戦国大名としての第一歩を踏み出す。時に家康二十二歳。



▶長男信康の首塚（朝日町若宮八幡宮） 天正七年（一五七九）今川氏への内通を理由に「正室築山御前追放・嫡男信康切腹」を織田信長から強要される。北条・武田の大敵をひかえた家康には織田の絶対命令に背く力はなかった。

つっぱりになれなかつた子

岩津中 岩瀬 信子

夏、一泊二日の職員旅行の思い出。岩津中発の名鉄貸切りバスに乗るため、岡崎駅で待っていた。バスが到着するやいなや、男のバスガイドさんがここにこしながら近づいて来られた。

何と前任校で担任した生徒の父親で、本業は運転士なのである。ここでしばし話がはずんだ。後で知ったことであるが、岩中には私がいるからということ、早朝よりのガイド役を買って案内して下さったのである。



始発より乗車した隣席の同僚がすでに知っていた。

「うちのできん坊主が岩瀬先生にお世話になりましたねえって言っていましたよ。」

昨年は変形学生服が全国的に流行した。昭和三十年代初期に太陽族とともに流行したマンボズボンに対比すれば、低年齢化したツツパリ族の学ランとでもいふべきか。

昨年、前任校の矢作中で二年生を担任した時、つっぱりに憧れたA君と真剣に対決した。彼は一度も反抗したことはなかった。ただつぱりの服装と行動に憧れただけのことである。この子と対決したとき、御両親と親しくなり、手をとりあつての連続ドラマが演じられた。

最後に彼はこんな手紙をくれた。

「僕は、先生に注意されるたびに、今度こそやめますと誓つても、また悪いことを繰り返して、みんなに見放されてしまった。見放さなかつたのは岩瀬先生だけだった。ありがとうございました。」

彼と私は一緒に泣いて一緒に笑った。

ついに彼はつっぱりになりたくてもなれないで終わってしま

った。でも、心はさわやかであった。でも、心はさわやかであった。

男のバスガイドさんとは、A君の父親である。

「できん坊主でもわたしの子だ。」という父親の愛の鞭が彼に通じた。

A君の変容とともに、学級の生徒一人ひとりもますます向上心に燃え、私の懐中に入ることとなった。

今年、私の教え子は、福岡中、矢作中、矢北中、岩津中と四校に広がり、総合体育大会には、挨拶まわりが忙しかつた。

## 教育日々



野鳥を守り豊かな心を

生平小 榊原 豊

「先生、おつたよ。」

始業前の職員室に元気な声が飛び込んできた。この声に、ついにヤマセミをみつけたな、とすぐに分かつた。

「どこでみつけた。」

「学校橋の下で、今学校に来るとき見たよ。」

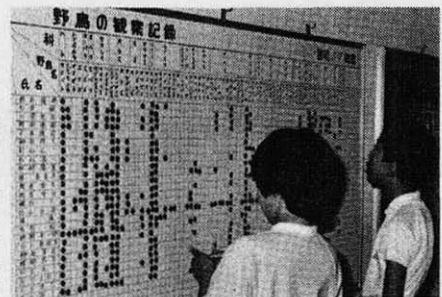
次の日の朝七時過ぎ、また別の子どもの声が飛び込んできた。「ゆうべと今朝の五時ごろに御所戸橋の近くで見たよ。」

新聞配達しながら野鳥の観察をしている野鳥クラブの部長の声である。

山紫水明とまではいわないまでも、生平の学区は緑に包まれ、男川が流れ、そこには多くの種類の野鳥が生息している。これらの野鳥に関心をもたせ、自分のふるさとに目を向けさせ、そのすばらしさに気づかせたい。

また、野鳥を守ることを通じて温かい心を育てたい。そんな願いをこめて、昨年度より野鳥の保護活動を始めた。つまり知る活動、守る活動、深める活動の指導である。これは、野鳥への関心を高めるための環境づくり給餌活動と巣箱かけ、そして、学級の時間や道徳での保護活動の意義についての指導である。

こうした指導を通して、昨年度は五年生二十一名で二十六科五十一種の野鳥を観察した。そして、今年度野鳥クラブもでき、本格的な観察活動や給餌活動を進め、県の保護実践発表大会への参加と、活動を広げてきた。



こうした活動を通じて、子どもたちの心をとりこにしたのは、り色の美しい水辺の鳥カワセミである。観察点の赤い印が地図の上に点々と加えられていった。その中で、同じなかまのヤマセミがいたという報告が職員室にもたらされたのである。この半年、クラブ員が必死になつてさがしてきた結果である。ヤマセミがいるということは自然があるということである。

登校中に見た野鳥の報告から始まる朝の会、教室は野鳥に関する掲示でいっぱい。「野鳥がいるということは、そこに自然があるということです。野鳥を守り、豊かな自然を守ろう。」を合言葉に、子どもとともに、野鳥を追いかけている毎日である。



# 第十回 教育文化賞

## 磯谷・加藤・岩瀬の三氏と二団体に

去る十月三十日(土)、第十回教育文化賞授賞式が、岡崎市消防本部で開催された。三氏・二団体の業績をたたえ、中根市長と福島電城L.C会長より賞状と副賞が贈られた。(個人)

▽磯谷釘作氏80歳 煙火製造業 岡崎市能見町八八

・大正十二年より煙火製造一筋に生涯をかけ、研究・努力を重ねてきた。特に打ち上げ煙火では名人と称され、「色と開き」に独特の技術を開発した。

▽加藤景堂氏74歳 尺八教授 岡崎市八幡町三丁目六一

・大正十四年から五十八年間、「芸道無涯」を信条に他の職業には一切つかず、岡崎市を中心

【寄贈刊行物・資料等】  
◆自ら考え行動する生徒を育てる — 生徒活動の実践 — 城北中学校

B 6判 二〇〇頁

◆少年徳川家康 大樹寺小学校 A 5判 九五頁

◆社会科学・理科学習の深化をめ A 5 一八二頁

ざして — 効果的な視聴覚教材の活用 — 大樹寺小学校 ◆育成 第59号・第60号 男川小学校

◆やり・わかり・できる子の育成 — 作文・道徳・体験学習を通して — 美合小学校

A 5 一八二頁

代表 鈴木英二氏(岩小校長)

・昭和四十六年以来、授業の中で生じた小さな疑問や問題点に着目し、共同研究を継続。その成果を集大成した手引書は、算数教育推進に大きく貢献した。

これで、第一回からの受賞者は、個人二十五氏、団体二十一人となった。

### 8%映画「石匠」優秀賞

昭和五十七年度全国自作視聴覚教材コンクールの社会教育部門で、視聴覚ライブラリー制作の8ミリ映画「石匠」が優秀賞に輝いた。また、視聴覚ライブラリーと社会科部と共同のビデオ作品「米づくり農家の新しい動き」は小学校部門で入選となった。「石匠」は鑿一本にすべてをかける伝統工芸師の姿を描いたもので近藤卓教諭(矢北小)を中心にした制作グループがあ

## 第9回 岡崎市中学校新人体育大会

(水泳競技の部) 昭和57・9・19

### ●総合成績

	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子	竜海	矢作北	甲山	矢作	葵	六ッ美
女子	福岡	南	矢作	甲山	竜海	矢作北

### ●個人成績

★印は大会新記録

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M自	隅田知広	竜海	★1' 01" 9	渚三和	甲山	★1' 06" 9
400M自	深津伸夫	附属	4' 55" 3	温水裕美	葵	5' 25" 6
1000M平	杉浦正典	甲山	1' 19" 3	鳥山いづみ	福岡	1' 25" 2
1000M背	杉浦一意	六ッ美	1' 12" 6	藤嶋かおり	矢作	1' 20" 7
100Mバタフライ	鈴木歩	城北	1' 11" 2	織田美子	南	★1' 14" 6
200M個人メドレー	酒井康次	葵	2' 45" 3	浅井津喜江	竜海	2' 53" 2
400Mメドレーリレー	竜海中学校チーム		4' 53" 3	南中学校チーム		5' 23" 8
400Mリレー	矢作北中学校チーム		4' 18" 0	甲山中学校チーム		4' 47" 7

たつた。なお、全国入賞は四年連続、通算七作目である。

### ●NHK全国学校音楽コンクールの結果

▽西三河地区予選

最優秀校 六ッ美北部小学校

岡崎小学校

矢作中学校

福岡中学校

羽根小学校

附属中学校

優良校 矢作南小学校

▽愛知県コンクール

優秀校 六ッ美北部小学校

矢作中学校

■十一月の研究発表校

●全日音研全国大会 十一月十日(岡中)

九日(金)〜二十日(土)

梅園小・岡崎小・六北小・美川中・城北中

・東海中学校十一月二十四日(水)「自ら考え、正しく判断する力を育てる」 — 問題意識を持つ授業づくり —

### ■よい歯の児童生徒

▽岡崎一 石原忠佳(根石小)

井上美智代(竜美丘小) 山本伸一(竜海中)

栗田直子(美川中)

▽準岡崎一 森野公仁(山中小)

榑原和征(本宿小) 鈴木孝美(井田小)

上原淳子(矢北小) 岡部毅(美川中)

三木範彦(東海中)

松岡由実(葵中) 富田智恵子(福岡中)

# 庚申塔



点

所在地一岡崎市本宿町上ノ山

人の体には天帝の隠密三尸虫さんしちゅうが住んでいて、六十日に一度庚申の夜、人の寝ている間に天に昇ってその人の罪過を報告するという。そこでその夜は徹夜して言行を慎み健康長寿を祈念する信仰が中国から入ってきて、日本流に変形して広がった。庚申待ちである。

本宿グリーンランド団地の西口の小高い所に本宿神明社の一の鳥居がある。この鳥居の左脇に、片麻岩の薄い板、通称なめ石と呼ばれる自然石で造った石室が二つある。そのうち鳥居に近い方がこの庚申塔である。

塔には文字らしいものは刻まれていないが、古いもののように、悪疫を調伏する青面金剛童子像が、台座には三猿が彫ってある。昔はこの辺りの主に浄土宗の家が十数軒で講をつくっておまつりをしていたが、今はほんのわずかの人が堂の世話をしているだけである。

講の夜は当番の家に集まり、酒肴を友ににぎやかに夜を明かしたが、戦後になると、御飯だけとなり、お茶と菓子だけとなり、今や講もなくなってしまうたよと、通りかかったお年寄りが懐かしんで話をしてくれた。

## この本を

- 白い道（上・中・下） 三国連太郎  
一法然・親鸞とその時代— 毎日新聞社 各 1,000円
- 宰相・鈴木貫太郎 小堀桂一郎  
文芸春秋社 1,300円
- 漢詩名句 はなしの話 駒田信二  
文芸春秋社 460円
- 大人であることの面白さ 外山滋比古  
PHP 研究所 1,200円
- 驚くべき健脳食 飯野節夫  
主婦と生活社 730円
- 裏声で歌へ君が代 丸谷才一  
新潮社 1,900円
- 日本が心配だ 竹村 健一  
本田宗一郎  
牛尾 治朗  
山手書房 1,100円
- アメリカの標的 小室直樹  
講談社 980円
- ICの話 垂井康夫  
トランジスタから超LSIまで  
日本放送協会 700円
- 鉄を生みだした帝国 大村幸弘  
ヒッタイト発掘 日本放送協会 700円

重く遠い道を行んだ徳川家康。誕生の地、岡崎城二の丸跡に「三河武士のやかた家康館」が完成した。

抜群の知名度のわりに人物が曲解されやすいのも家康。虚像に踊らされた感情論や英雄崇拜論で持て囃すのは危険である。家康から何を学ぶか。これを機会に実像を見つめたい。

信賴するに足る人、子どもや親は教師がそんな存在であってくれることを強く願っている。あたり前のことであろうが、今の自分はその存在でないと認めざるを得ない。だから、子どもらと相對するのが苦しく辛い。とにかく今は、自分の心と頭と体を子どもらに向けていくしかない。不言実行。



あぶないキーンとブレイキの音。夕方薄暗くなって、通勤の車が家路へ急ぐ頃の塾帰りの子ども達。勉強は塾でやるからと、教室でねむそうな顔をしている子はいないか。学校は、保育所であってはならない。いま、学校でやるべきことは何かを反省することも必要であろう。

菅生川原の造形おかざきつ子展は、秋の歳時記である。澄んだ秋空と子供の創造は楽しくも似つかわしい。一見、不細工な作品も大人をはるかに越えた生気がある。子供の真の姿はそういうものだろう。日頃、野放図にも楽しい子供の世界を壊してはいはしないだろうか。子供の芸術は大人への批判であろう。

●カ  
ツ  
ト  
梅園小

浅井 真理子